

報道機関各社 様

## 麻しん（はしか）患者発生について

7月5日（水）、札幌市内の医療機関から札幌市保健所に麻しん（はしか）患者の発生届の提出があり、札幌市衛生研究所で病原体検査を実施したところ、陽性と判明いたしました。調査を継続しているところですが、各医療機関および市民へ注意喚起のために情報提供を行います。

### 1 患者情報

20歳代、男性

### 2 患者確定までの経過

6月23日（金） 発症（発熱等）

6月27日（火） 市内の医療機関を受診

7月5日（水） 当該医療機関より麻しん患者として札幌市保健所へ届出

7月7日（金） 札幌市衛生研究所による病原体検査の結果、麻しんと検査診断

### 3 保健所の対応等

調査を継続するとともに、接触者の健康状態の確認及び発症した場合の医療機関の受診に関してお願いするなど、引き続き、感染の拡大防止に向けた取組を行います。

### 4 麻しんに関する注意喚起

- 発熱、発疹等の症状から、「麻しんかもしれない」と考えられる場合は、医療機関に事前に連絡の上、速やかに受診してください。
- 麻しんは空気感染するなど、感染力が非常に強い感染症ですが、ワクチン接種による予防効果は高く、麻しんワクチンの接種を受けていれば、感染リスクは低くなります。

患者、医療機関の特定に係る情報の収集等につきましては、プライバシーの保護および医療機関等の正常な運営確保のため、提供資料の範囲内での報道をお願いいたします。

問い合わせ先：札幌市保健所  
感染症総合対策課  
電話 622-5199

## 麻しんについて

## 1 症状等

感染すると約 10 日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。2～3 日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。肺炎や中耳炎を合併しやすく、患者 1,000 人に 1 人の割合で脳炎が発症するとされています。

## 2 感染経路

麻しんウイルスの感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染で、人から人への感染が伝播し、その感染力は非常に強いとされており、感染する時期は、発症の 1 日前から解熱後 3 日後までとされています。

免疫を持っていない人が感染するとほぼ 100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続するとされています。

## 3 潜伏期間

約 10 日～12 日間

## 4 予防

- ・麻しんは感染力が非常に強く、主に空気感染であるため、手洗い・マスクのみで予防はできません。
- ・麻しんワクチンの接種（定期予防接種は 2 回。第 1 期：1 歳、第 2 期：小学校入学前）が有効な予防法と考えられています。本市では第 1 期では 97.8%、第 2 期では 85.0%の方がMRワクチンを接種しています（令和 4 年度実績、国の目標値は 95%）。
- ・「麻しんワクチンを 2 回以上接種、又は過去に麻しんに罹患したことがある方」を除き、麻しんワクチン（MRワクチン）を 2 回接種することが重要です。
- ・なお、麻疹の患者に接触した場合には、72 時間以内に麻しんワクチンの予防接種をすると効果的であるといわれています。

## 5 治療

特異的な根治療法はなく、対症療法を行います。

## 6 麻しん患者の報告数（過去 5 年間）※令和 5 年は 6 月 25 日まで（本件含まず）

年次	平成 30 年	平成 31 年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年※
札幌市	1	3	0	0	1	0
北海道 (本市含む)	1	6	0	0	1	1
全国	279	746	13	6	6	19

(以上)